しあわせ信州創造プラン 2.0

長野地域計画

長野県長野地域振興局

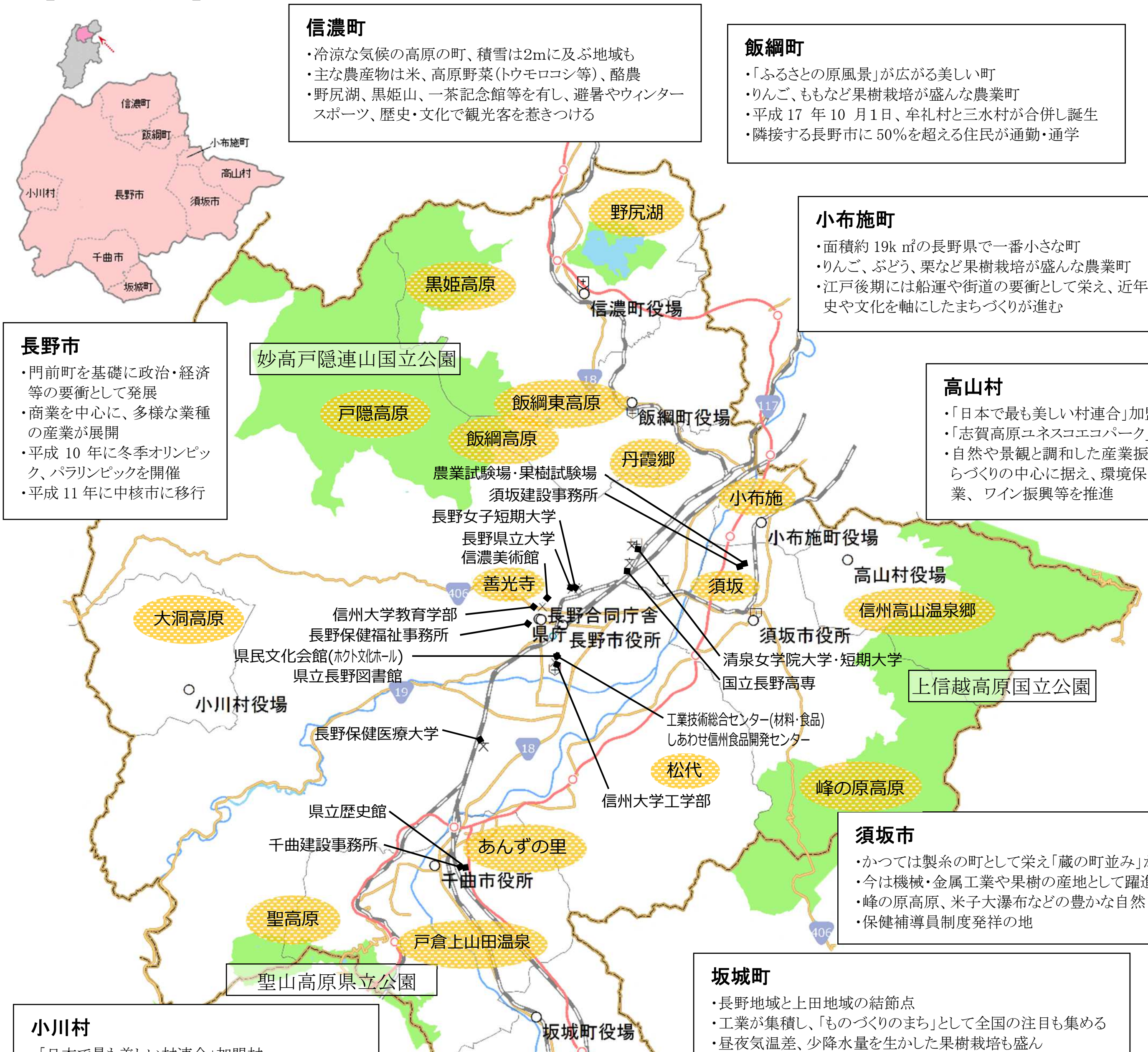
（2018 年３月　策定）

長野地域（長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、飯綱町、小川村）

長野地域の特性

- 長野地域は、善光寺平を中心に政治・経済・文化・教育等の機能が集積し、県の中核的な地域として発展しています。
- 多種多様な産業が栄え、特に機械・電気・食品をはじめとした製造業は地域経済のけん引役となっています。また、農業も盛んで、中でも果樹は市場性が高く生産量も多く、全県１位の産出額を誇っています。
- 観光においては、善光寺をはじめとする歴史的遺産、温泉や国立公園、自然や伝統文化体験など豊かな資源に恵まれています。
- 新幹線や高速道路により首都圏・北陸圏との近接性が高いことや、都市部と自然豊かな地域が共存することも本地域の特徴です。

【管内の概況】



信濃町
- 冷涼な気候の高原の町、積雪は2mに及ぶ地域も
- 主な農産物は米、高原野菜(トウモロコシ等)、酪農
- 野尻湖、黒姫山、一茶記念館等を有し、避暑やウィンタースポーツ、歴史・文化で観光客を惹きつける

飯綱町
- 「ふるさとの原風景」が広がる美しい町
- りんご、ももなど果樹栽培が盛んな農業町
- 平成 17 年 10 月1日、牟礼村と三水村が合併し誕生
- 隣接する長野市に 50%を超える住民が通勤・通学

小布施町
- 面積約 19k ㎡の長野県で一番小さな町
- りんご、ぶどう、栗など果樹栽培が盛んな農業町
- 江戸後期には船運や街道の要衝として栄え、近年では歴史や文化を軸にしたまちづくりが進む

長野市
- 門前町を基礎に政治・経済等の要衝として発展
- 商業を中心に、多様な業種の産業が展開
- 平成 10 年に冬季オリンピック、パラリンピックを開催
- 平成 11 年に中核市に移行

高山村
- 「日本で最も美しい村連合」加盟村
- 「志賀高原ユネスコエコパーク」登録
- 自然や景観と調和した産業振興をむらづくりの中心に据え、環境保全型農業、ワイン振興等を推進

須坂市
- かつては製糸の町として栄え「蔵の町並み」が残る
- 今は機械・金属工業や果樹の産地として躍進
- 峰の原高原、米子大瀑布などの豊かな自然
- 保健補導員制度発祥の地

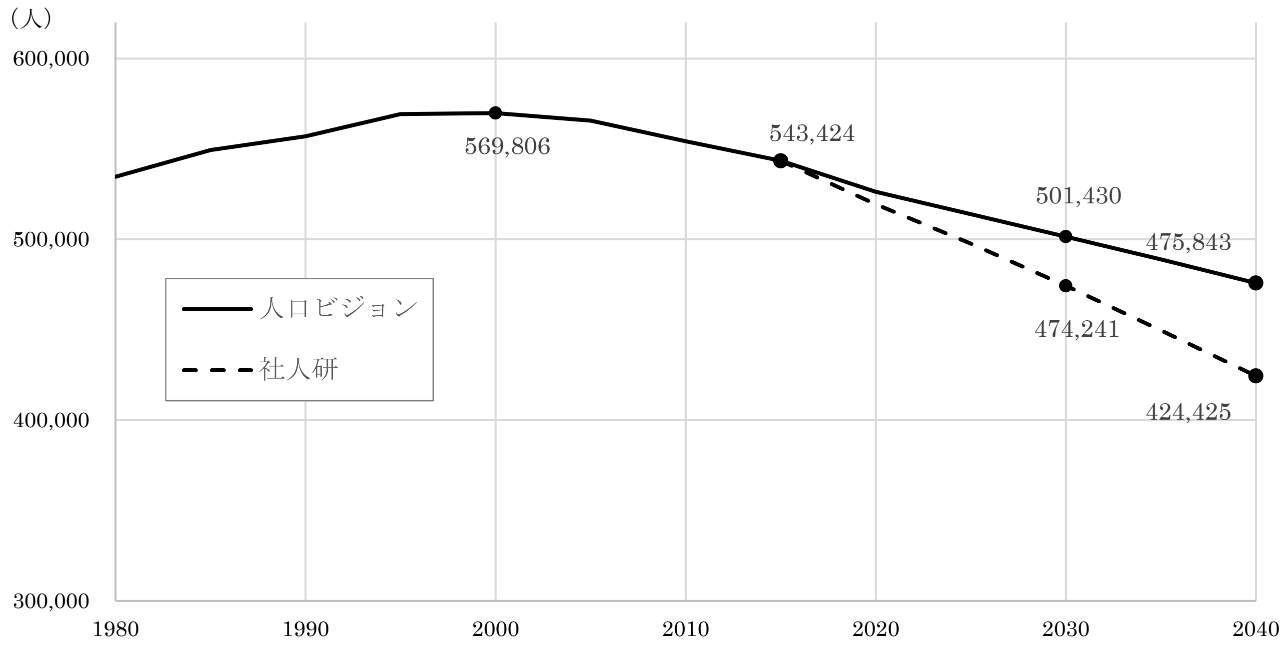
坂城町
- 長野地域と上田地域の結節点
- 工業が集積し、「ものづくりのまち」として全国の注目も集める
- 昼夜気温差、少降水量を生かした果樹栽培も盛ん
- 新たな産業創出として、ワインのブランド化を推進

小川村
- 「日本で最も美しい村連合」加盟村
- 平成 21 年に「にほんの里 100 選」に選定
- 郷土食「おやき」の元祖の村
- 大洞高原にある「星と緑のロマントピア」には天文台やプラネタリウム館がある

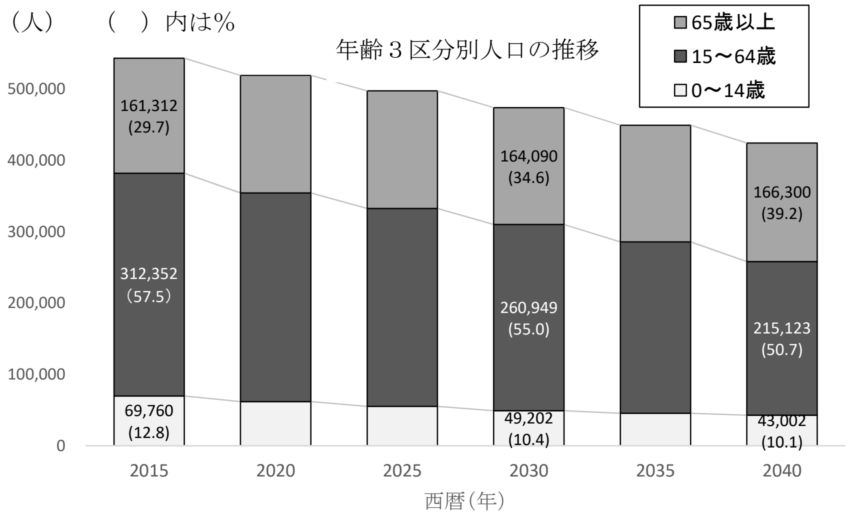
千曲市
- 交通網が集積する「要衝の地」
- 松本・上田地域へも１時間以内で移動可能
- 千曲川が中央を流れ、東に科野の里、西にさらしなの里、南に戸倉上山田温泉など特色ある優れた地域資源がバランスよく配置

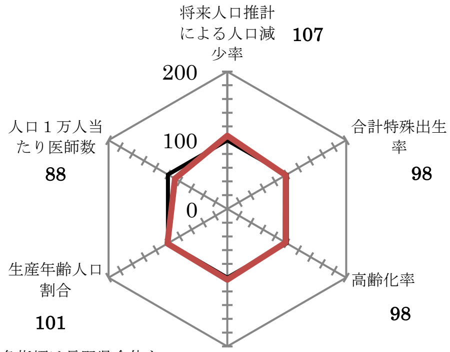
【人口】

長野地域の人口の推移



注）2015 年までは国勢調査、2020 年以降は社人研準拠推計
　　及び市町村人口ビジョン（地方創生総合戦略）。

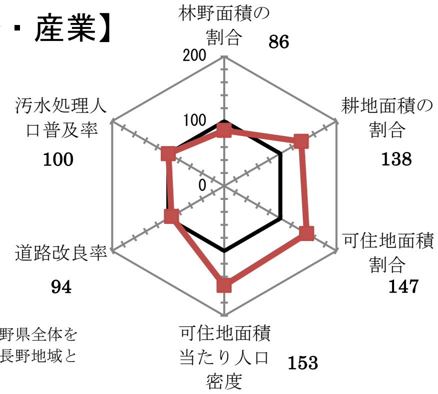




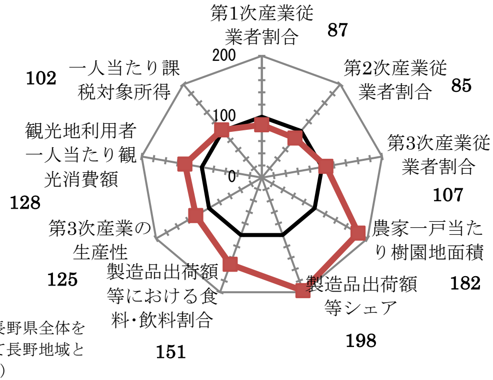
注）各指標は長野県全体を100 として長野地域と比較(指数)

注）2015 年は国勢調査、2020 年以降は社人研準拠推計

【地勢・産業】



注）各指標は長野県全体を100 として長野地域と比較(指数)



注）各指標は長野県全体を100 として長野地域と比較(指数)

長野地域は、西暦 2000 年をピークとして人口減少トレンドにありますが、地方創生の取組を通じて、西暦 2040 年に人口減少を約 5 万人抑制することを目標に掲げています。
また、当地域は耕地面積割合・可住地面積割合等が県平均を上回り、首都圏等との近接性といった好条件もあり地勢的に恵まれています。産業的にも、果樹を中心とした農業、食品産業をはじめとした製造業、人口集積を背景とした第三次産業が盛んで、それらの関連指標は県平均を上回っています。

地域のめざす姿

「活力あふれ・人が集い・文化薫る」中核的都市圏の形成へ

・長野地域は、県下の人口の約４分の１を占め、中核市である県都長野市を中心に主要な官公庁や民間事業所、高度医療機関、教育文化施設などの高次都市機能が集積するほか、多様な産業や観光資源も存在し、本県の政治、経済、教育、文化芸術などの面で中心的な役割を果たしています。また、首都圏や北陸圏との近接性といった地理的な条件にも恵まれ、高いポテンシャルを有する地域となっています。
・地域の有するポテンシャルを最大限発揮できるよう、長野地域連携中枢都市圏の取組と足並みをそろえ、都市と農村部が広域的に連携しあいながら、「活力あふれ、人が集い、文化薫る」長野地域をめざします。

地域重点政策

１　地域資源を生かして県経済をけん引する「活力あふれる」長野地域づくり

【ねらい】

大学・研究機関の集積等を生かして新技術の活用を進めるなど、ものづくり産業の振興を図ります。とりわけ、食品産業については、地域における集積を生かし、健康長寿にも着目してステップアップを図ります。
また、地域の特色である果樹を中心として農産物の魅力を高め、競争力の強化を図りながら次の世代へつながる農業を構築します。
さらに、地域の森林を守るとともに、それを生かして林業の活性化を図ります。

【現状と課題】

・出荷額が全県の約４分の１を占める食品産業の集積やしあわせ信州食品開発センターを始めとした支援機関があることは地域の強みです。
・地域を担う多様な農業の担い手の確保・育成と技術・経営力の向上は引き続き課題です。
・地域の特色である果樹の強みを農商工観連携で更に伸ばし、生かしていく必要があります。
・人口減少下においては海外需要の取り込みが必要であり課題です。
・依然として多い野生鳥獣害等は課題である一方、2019 年に新たなジビエ肉解体処理・加工施設ができることなどは強みです。
・小水力発電等の自然エネルギー推進は一定の成果を収めています。

【取組内容】

● **地域の特長を生かした「ものづくり産業」強化**

・信州大学などの学術研究機関や長野県工業技術総合センターなどの産業支援機関の集積及びアクア・イノベーション拠点が研究している高機能膜などの優位性ある材料等の技術シーズ（種）も生かしながら、地域の実情に即したものづくり産業の振興に向け、地域企業への技術の普及や研究

信州大学
国際科学イノベーションセンター

開発力向上の支援等に取り組みます。

・特に、食品産業については、発酵食品や機能性食品、未利用バイオマス活用製品などの分野の発展性を見据えて、北信地域振興局等とも連携しながら、発酵に欠かせない遺伝資源の活用・保護や製品開発支援等の取組を進めます。

● **おいしい農産物の継承と魅力向上、競争力の強化**

・地域農業における多様な担い手の確保・育成や新品種・新技術等の導入、６次産業化の支援、農業生産基盤の整備、荒廃農地の活用などを進めます。

・特に、地域の特色である果樹については、これらの取組から一歩進めて、農商工観が連携した果物を生かした地域活性化の取組を進めます。

● **地域産品の広域的な販路開拓**

うまいものまるごと大商談会 2017

・新潟県や東北信の地域振興局等と連携して、地域の農林水産物や加工食品を生産者が直接仕入れ担当者に売り込むとともに生産者の提案営業力等の向上を図る商談・交流会を開催するなど、地域産品の販路開拓を広域的に推進します。

・関係機関の協力を得て、海外需要の取込みに向けた研究を進めます。

● **地域の森林資源の保護・活用**

・野生鳥獣を集落等へ近づけないための総合的な鳥獣被害対策や森林病害虫対策を進めるとともに、イベントの開催などジビエの需要を喚起する取組を行うほか、伐採適期を迎えつつある森林資源の活用を推進します。

● **自然エネルギーの活用促進**

・管内の特徴である豊富で安定した水量や落差のある千曲川の支流を活用した小水力発電等の推進を図るなど、自然エネルギーの普及拡大に向けた取組を支援します。

【達成目標】

指　標　名	現　状	目　標	備　考
食品産業製造品出荷額等 工業統計調査（経済産業省調）	1,782 億円 (2014 年)	2,070 億円 (2022 年)	[H29.7 内閣府試算の名目 GDP 成長率（ベースラインケース）を上回る年率2%の成長を見込み試算]
生産性を高める農地の条件整備面積 （農政部調）	1,220ha (2013～2016 年度累計)	1,365ha (2018～2022 年度累計)	[2022 年度までに整備を予定している面積を積み上げ]
果樹戦略品種等の栽培面積 （農政部調）	1,155ha (2016 年度)	1,480ha (2022 年度)	果樹戦略品種：シナノスイート、シナノゴールド、秋映、ナガノパープル、シャインマスカット、サザンスイート、リンゴ長果 25、ブドウ長果 11、スモモ長果 1 [過去 15 年のトレンドを勘案して設定]
果樹の新規就農者数（45 歳未満） （農政部調）	32 人／年 (2014～2016 年度平均)	32 人／年 (2022 年度)	[人口減少下にあっても現状と同水準を目標に設定]
素材（木材）生産量 木材統計（林務部調）	65,431 ㎥ (2015 年)	77,000 ㎥ (2022 年)	[搬出間伐や主伐の伸び等を勘案して設定]
小水力発電設備導入容量（新規認定分） （環境部調）	461kW (2016 年度末)	1,841kW (2022 年度末)	[2022 年度までに設置を予定している設備の容量を積み上げ]

２「人が集い、文化薫る」魅力ある長野地域づくり

【ねらい】

首都圏・北陸圏との近接性、豊富な観光資源、豊かな自然など、地域の強みを生かした観光を推進するとともに、都市部と自然豊かな地域が共存する当地域の特性を生かした移住・二地域居住を推進します。
また、自らが生まれ育った地域の文化・産業・自然への理解を深めることにより、ふるさとに愛着を持ち、戻ってきたくなる・自慢したくなる長野地域をめざすとともに、大学生などの若者と連携して活力あるまちづくりを進めます。
さらに、長野県立大学を含む高等教育機関や、全面改築が予定されている信濃美術館などの教育・文化施設の集積を生かした「文化に親しむ」地域づくり、2027 年の第 82 回国民体育大会開催を見据えた「スポーツに親しむ」地域づくりを進めるとともに、地域の随所に存在する「都市景観・農村景観・自然景観」や「農業遺産・土木遺産」の文化資源・観光資源等としての価値を掘り起こして、地域の活性化を図ります。

【現状と課題】

・首都圏等に近く、観光客を惹きつける温泉や国立公園等の資源に恵まれるなど観光面の強みがある一方、インバウンド誘客や観光満足度の向上に向けて一層の取組が求められています。
・都市機能の集積に加えて自然も豊かなため、移住・二地域居住先としてのポテンシャルが高いことが強みです。
・大学進学を機に長野地域を離れる者のＵターンの促進や地域活動への住民参加の促進等を図る上で、地域愛をいかに育むかが課題です。
・若者同士が交流しつつ地域課題に向き合う場が、一部地域において先進事例があるものの、長野地域全体では少ないのが課題です。
・高等教育機関入学定員や博物館数、図書館蔵書数について全県の約４分の１を占めるなど、教育・文化基盤が集積していることは強みです。
・長野県立大学開学や信濃美術館の全面改築、2027 年の第 82 回国民体育大会開催を契機として、教育・文化・スポーツの振興を図る必要があります。
・優れた景観や土木遺産等の地域資源が点在しており、次世代への継承や、観光等の面からの活用が望まれます。

【取組内容】

● 満足度の高い魅力ある観光地域づくり
　・多様な主体と連携・協働しながら、長野地域ならではの観光資源を生かした満足度の高い観光に向けて取り組むとともに、観光を支える基盤の整備に取り組みます。
● 移住・二地域居住先として選ばれる環境づくり
　・人口や企業などが集積した都市部の利点と豊かな自然・農村の魅力を生かした多様なライフスタイルの情報発信により地域の認知度の向上を図るなど、移住・二地域居住先として選ばれる環境づくりを、市町村と連携して進めます。
● ふるさとを大切にする心の育成
　・ふるさと長野地域に誇りと愛着を持ち、地域を大切にする心を育むため、「ふるさと教育」

や「愛護活動によるまちづくり」を推進します。

長野県立大学 三輪キャンパス

● **若者や高等教育機関と連携した地域づくり**

・長野県立大学をはじめとした高等教育機関が集積するなど若者が比較的多い地域の特性を生かし、若者同士がコミュニケーションを図り、併せて、地域課題解決の方策等を検討する場を創設します。

・長野県立大学ソーシャル・イノベーション創出センターなどの高等教育機関と地域が連携した取組を支援するとともに、高等教育機関と地域のニーズを仲介するコーディネート機能を実現します。

● **文化・スポーツに親しむ豊かな生活環境づくり**

・信濃美術館や県立長野図書館、県立歴史館といった管内の様々な文化施設等において行われる文化芸術活動・生涯学習活動を支援します。

・2027 年の第 82 回国民体育大会を見据え、健康長寿にも寄与する地域におけるスポーツ活動を支援するとともに、プロスポーツチームを育てる取組も支援します。

・小布施や姨捨、戸隠などの都市・農村・自然景観の維持・保全・価値向上を図るとともに、レガシー（オリンピック、土木・農業土木）の活用を推進します。

信州ふるさとの見える（丘）
（小川村）

【達成目標】

指　標　名	現　状	目　標	備　考
観光地利用者数 観光地利用者統計調査（観光部調）	1,570 万人 (2016 年)	1,650 万人 (2022 年)	管内観光地を訪れた日帰り客、宿泊客の延人数[2017 年実績見込みから５％増加を目標に設定]
観光消費額 観光地利用者統計調査（観光部調）	693 億円 (2016 年)	728 億円 (2022 年)	管内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計 [2017 年実績見込みから５％増加を目標に設定]
移住者数 （企画振興部調）	238 人 (2016 年度)	320 人 (2022 年度)	新規学卒Ｕターン就職者や数年内の転出予定者などを除く県外からの転入者 [信州創生戦略の目標を基に設定]
地域の行事に参加する児童生徒の割合 全国学力・学習状況調査（文部科学省調）	小学校 85.9% 中学校 58.2% (2017 年度)	維持・向上 (2022 年度)	[全国平均を大幅に上回る現状の水準以上を目標に設定]
学術、文化、芸術、スポーツの振興を活動分野とするＮＰＯ法人数 （県民文化部調）	78 法人 (2016 年度)	維持・向上 (2022 年度)	[人口減少下にあっても現状の水準以上を目標に設定]
信州ふるさとの見える（丘）認定数 （建設部調）	12 箇所 (2016 年度)	17 箇所 (2022 年度)	[2017 年度実績見込みから毎年１箇所増加を目標に設定]

３　地域重点政策を支える、地域一体となった「生活基盤の確保」の推進

【ねらい】

医療・介護や防災・減災、基盤整備等、安全・安心・快適な暮らしの基盤の確保を着実に推進し、「活力あふれ・人が集い・文化薫る」長野地域に向けて推進する地域重点政策を下支えします。

【現状と課題】

・更なる高齢化進展に伴って、医療分野ごとの連携、機能分化による効率的な医療体制の構築や、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる環境づくりが課題です。
・平成 26 年の神城断層地震をはじめとして、大雨･大雪などによる災害の発生が続くなか、様々な災害事象に迅速・的確に対応するため、ソフト・ハード両面で計画的な対策・体制整備を進める必要があります。
・人口減少社会にあって既存の社会資本ストックも有効活用しながら、地域の生活と経済を支える基盤の整備を「適時・的確」「効率的・効果的」に進めることが課題です。
・社会・経済の発展に欠かせない重要な社会基盤である公共交通を将来にわたって維持・存続させることが課題です。

【取組内容】

● **地域で安心して医療・介護を受けることのできる体制の構築**

・医療の効率的な連携体制の構築に向けた取組を進めるほか、医療・介護関係者の情報共有の取組を支援するなど地域包括ケア体制の拡充に向けた取組を促進します。

● **安全・安心・快適な地域づくり**

・想定を超えて頻発する自然災害に対応する防災・減災対策を進めるほか、地域ぐるみの防災体制構築、災害に強い森林づくりを推進します。
・緊急輸送路の信頼性向上や交通渋滞の解消など、地域の生活と経済を支える安全・快適な「まち・みち・かわづくり」を進めるとともに､人口減少社会を見据えて公共施設マネジメントを推進します。
・公共交通の維持に向けた検討を進めます。

都市計画道路 高田若槻線（長野市）

地域連携プロジェクト

地域重点政策のうち、「活力あふれる長野地域」と「人が集い、文化薫る長野地域」の両分野に関連し、地域において市町村や関係機関と密接に連携して取り組む必要があるものについては、「地域連携プロジェクト」として推進します。

1「ながの果物語り」プロジェクト

【ねらい】

農商工観の連携等により、長野地域の特色である果樹を軸に地域活性化を推進します。

【現状と課題】

・産出額が全県の約４割を占める、生産性の高い果樹栽培が地域の強みです。
・長野地域の果樹のブランド化とともに、果樹の強みの、地域産業ひいては地域全体への波及が求められています。

【取組内容】

・首都圏等に対して市町村や農協等と協働し果物の魅力を積極的に発信するほか、稼げる技術習得支援等により「稼ぐ力」を強化します。
・食品産業製造品出荷額等が県内１位という長野地域の強みを生かせるよう、果物を生かした

「ながの果物語り」ロゴマーク

新商品の開発について、宿泊業や飲食業などの実需者のニーズを踏まえて企画から販売まで支援します。

・外国人観光客の伸びが低迷している現状を踏まえ、果物狩り等の外国人観光客から評価の高い体験型ツアーの受入体制の整備等を進め、ツアーの提案に結びつけるなど、果物を生かしたインバウンドを促進します。
・高品質な果樹生産を支える畑地かんがい施設の整備や果樹団地の再生整備による高生産性団地の形成を行います。
・果樹園等農村景観の持つ価値を再発見し、地域の魅力として発信します。

【達成目標】「果樹戦略品種等の栽培面積」「果樹の新規就農者数（45 歳未満）」（再掲）

２「体験」と「交流」を軸とした「地域の特長を生かした広域観光」推進プロジェクト

【ねらい】

アクティビティ等の「体験」と地域の人々との心温まる「交流」を軸とした長野地域ならではの観光を推進することで、観光満足度の向上を図り、再び訪れたいと思われる地域づくりを進めます。

【現状と課題】

・首都圏に近く、温泉や国立公園等の自然環境に恵まれるとともに、伝統文化や農作業等の体験につながる地域資源が豊富にあります。また、サイクリング等のアクティビティを観光に活用する取組も始まっています。
・伸び率が全県平均を下回っているインバウンドを促進する必要があります。
・魅力ある観光資源の掘り起こし・磨き上げや観光を支える基盤の更なる整備等、観光客の満足度を高める必要があります。
・広域的に連携して観光を進める必要性は認識されていますが、その取組は限られています。

【取組内容】

野尻湖の SUP 体験（信濃町）

・埋もれた観光資源の掘り起こしや周遊モデルルートの検討など、インバウンド誘客や満足度の高い観光振興を図るための「体験」と「交流」を軸としたメニューの磨き上げに関係機関と連携して取り組みます。
・観光案内力向上や体験コンテンツづくりのための研修会など、「体験」と「交流」を地域で担う人材の養成を図ります。
・２つの国立公園があるメリット等を最大限に活用した広域観光を、東北信の地域振興局や群馬県、新潟県等と圏域を越えた連携を図りながら推進します。
・地域住民や多様な民間事業者、市町村等と幅広く協働しながら、地域が一体となった持続可能な観光振興を推進します。
・千曲川沿いのサイクリングロードの整備や小布施市街地における道空間整備、戸隠神社、善光寺周辺の道路整備などの観光を支える基盤づくりを、市町村とも連携しながら、地域戦略推進型公共事業等により進めます。

【達成目標】「観光地利用者数」「観光消費額」（再掲）